

CAS	584849
物質名	トルエンジイソシアネート
IARC Vol. (発行年)	71 (1999年)
遺伝子傷害性に関する知見	<ul style="list-style-type: none"> ・ in vitro 試験系では、細菌を用いたいくつかの試験、及びショウジョウバエを用いた試験で陽性の結果であった。げっ歯類の細胞を用いた試験で遺伝子突然変異及び姉妹染色分体交換を誘発したが、染色体異常、DNA 傷害を誘発しなかった。ヒトのリンパ球を用いた実験では、染色体異常及び DNA 傷害を誘発したが、姉妹染色分体交換を誘発しなかった。 ・ in vivo 試験系では、哺乳動物の赤血球において小核を誘発しなかった。
実験動物に関する知見	<p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：2,4 - 及び 2.6-トルエンジイソシアネートの混合物を、マウス、ラットへ強制経口投与した結果、ラットの雄では皮下の線維腫、線維肉腫、膵臓の腺房細胞の腺腫を、雌では膵島細胞腺腫、肝臓の腫瘍性結節、乳腺の線維腺腫を認めた。マウスの雌では、血管腫、血管肉腫及び肝細胞の腺腫瘍の発生数増加を認めた。</p> <p>2,4 - 及び 2.6-トルエンジイソシアネートの混合物をマウス、ラットへ吸入暴露させた結果については、報告が不十分であると評価された。</p>
ヒトに関する知見	<p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：職業暴露と関連した3つのコホート調査及び1つのケースコントロール研究からは、本物質への暴露と発がんとの関連性または一貫したパターンが認められなかった。</p>
評価結果	<p>上記のとおり、本物質は細菌を用いる試験等において遺伝子傷害性を誘発しているものの、各異性体単体の影響は明確でなく、ヒトに関する知見は不十分なものであった。</p>